

## 川崎能楽堂

JR「川崎駅」東口より徒歩約5分



### 能も狂言も、思っていた以上に身近 想像する楽しさが広がる能楽堂

川崎駅周辺のにぎわいから少し歩いた場所に「川崎能楽堂」があります。昭和61(1986)年に開館し、今年で40年を迎えるこの建物は、市民に開かれた能楽の場として歩んできました。主催公演のほか、貸館としても利用されています。

客席は148席と、能楽堂としてはコンパクトなつくりで、舞台と客席の間に白洲(しらす)がなく、見所(けんしょ)と舞台がとても近いのが大きな特徴です。後ろの席からでも、演者の息づかいが感じられるほどの距離感であり、「こんなに近くで見られるとは思わなかった」という声も多く聞かれます。演じる側にとっても、この距離感は特別なようで、舞台に立つ緊張感がより高まることもあるそうです。すぐ目の前で繰り広げられる世界を感じられることで、物語の世界に自然と引き込まれていく。それは、「鑑賞する」というより「同じ空間で体験する」感覚に近いのではないかと思います。

この能楽堂の能舞台には屋根がありません。限られた敷地条件の中で、あえて屋根を設けず、「市民ホール」としても使えるように設計されました。能や狂言だけでなく、さまざまな表現の場として利用されています。能舞台という特別な空間でありながら、どこか身近で、気軽に足を運べる雰囲気があるのも川崎能楽堂ならではの言えるかもしれません。

能楽は舞台装置がない分、自分の想像で肉付けをして、自分の中でその物語が進んでいくところに独自の魅力がある芸能。川崎能楽堂には、能や狂言を入りに、想像力を広げ、自分なりの楽しみ方を見つけられる「余白」の時間が用意されているように感じられます。皆さんも、まずは一度、足を運んでみませんか。



### 最初の一歩をやさしく後押し

「能や狂言は難しそう」、そんな不安をやわらげるための工夫の一つが、「川崎市定期能」で行われている事前講座です。上演前に、出演する能楽師本人が演目のあらすじや見どころを解説し、ときには体験コーナーが設けられることも。少し予習をしてから舞台を見ることで、感じ方が変わると話す方も多々あります。

また、狂言のみの公演や、分かりやすい解説付きの企画もあり、笑いや親しみやすさを通して伝統芸能に触れられる機会も用意されています。



能「二人静」(撮影:前島吉裕)



### 体験してみると、能はぐっと近くなる

毎年夏に開催される「夏休み能楽体験・鑑賞教室」は、子どもから大人まで参加でき、毎回定員を超える応募があるそうです。謡(うたい)や仕舞(しまい)、笛、小鼓(こつづみ)といった能を形づくる要素から一つを選ぶのではなく、すべてを体験するのが特徴です。

成人向けの能楽教室(謡曲・仕舞・笛・小鼓)も通年で開講しています。講師の能楽師の先生方は、初めての人にも分かりやすく導いてくれます。



夏休み能楽体験・鑑賞教室(仕舞)



謡のお稽古

お稽古の場として、実際の能舞台に上がれるのも、この能楽堂ならではの。



### あなたなりの使い方が見つかる場所

貸館としての利用は、能や狂言のお稽古や発表会だけでなく、日本舞踊、邦楽、演劇、音楽公演など多岐にわたります。館内には和室もあり、和室のみの利用ができる日もあります。

舞台装置を大きく組むことができない分、想像力を生かした表現が求められるのも、この空間ならではの特徴です。自分の表現や物語が際立つ、そんな使われ方ができる貴重な施設です。



「こういう使い方はできるかな」そう思ったら、まずは相談してみましょう!

#### ■川崎能楽堂

〒210-0024 川崎区日進町 1-37

電話 044-222-7995

休館日 水曜日、年末年始



管理運営団体  
公益財団法人川崎市文化財団  
ホームページ